

2012

4月号

福島県版

原水協通信

原水爆禁止福島県協議会

福島市舟場町 3-26 青年会館

Tel/Fax 024-522-6519

E-mail: fukushima_gensuikyo@peach.plala.or.jp

3/30 福島県原水協 2012 年総会開かれる

「核兵器署名全面禁止」署名の大きな飛躍を！全自治体で原爆写真展を！

2012 年福島県原水協総会が、3 月 30 日(金)午前 10 時～午後 5 時まで、郡山市なりた温泉で開かれました。総会には、地域原水協、加盟団体から 20 名が参加。冒頭年金者組合の山口文彦代表が、「震災と原発事故で昨年は大変な状況だったが、意外と福島の実況が全国的にはまだまだ知られていないようだ。私たちは苦難を乗り越えながら、ふくしまから現状を発信することが必要。今日はしっかりと方針について意見交換をしていきましょう。」と述べました。

また、来賓として参加のふくしま復興共同センターの齋藤富春代表は、この 1 年の取り組みを紹介し、「『原発いらない』は福島県民の痛恨の叫び。原発に頼らない取り組みを求め、ともに頑張りましょう」と挨拶されました。

午前、事務局から 2011 年度のまとめと決算の報告、2012 年度の方針と予算の提案がありました。参加者からは、「震災直後は 6・9 で何を訴えたらよいか迷ったが、『核兵器全面禁止』の署名は市民には大変共感された(いわき)、「原水協の活動が青年の主体性を発揮できる場にして欲しい。そのために『役割』を具体的に出して欲しい(平和委員会)、また、今年で 50 周年をむかえる新婦人からは「新婦人の『5 つの目的』の一番初めに核廃絶がある。核兵器と原発は『いのち』の問題。若い人の力をどう引き出すかが今重要」など活発な意見が出されました。

また、午後 3:00 からは、日本原水協代表理事でわたり病院医師の齋藤 紀氏を講師にお招きして「福島の放射能被害と原水協が果たす役割」と題して学習会が行われました。齋藤氏は、人権擁護の観点から、住居・労働・教育など総合的な施策を講じることが国や自治体に求められていること、福島県内に定着する人、帰還する人分け隔てなくその生活を保障することが必要と話されました。また、未だ復興が進まず自治体が漂流している中で、野田首相が収束宣言を出し、かつ福島の子どもの医療費無料化を拒否したことにも触れられました。県民のいのちと暮らしを守る闘いがますます必要！との思いをいっそう強くした学習会でした。

2012 年は、何とんでも昨年なかなかすすまなかった「核兵器全面禁止」の署名を大きく飛躍させることと、県内全自治体で「新原爆写真展」とりくむことが最大のポイントです。特に署名は、2015 年の NPT 再検討会議に向け県内 20 万筆を目標に取りくみます。「原水協通信」読者の皆様のご協力をお願いいたします。



3/30 福島県原水協総会

県内の署名数

7,274 筆

(3 月 31 日現在)

3・1 ビキニデー参加者感想より

阿部節子さん(いわき市)

初めての参加でしたが、福島第一原発事故による放射能被害の後でしたので、私にとっても意味のある参加になりました。58年前、日本のマグロ漁船がビキニ環礁でアメリカによる水爆実験の犠牲になったことは、毎年行われている“いわき平和のつどい”で、昨年、「わしも死の海におった」のDVDを私も見ていました。第5福竜丸乗組員の大石又七さんは被爆しているが被爆者と認められていないと話されました。それは、アメリカが核実験が出来なくなることを恐れ日本に圧力をかけ、政治決着をつけてしまったからだということでした。いつも日本政府はアメリカのいいなりです。被害者はいつも国に置き去りにされます。原子力発電所もアメリカの意向に沿い「原子力の平和利用」と言って日本に導入させました。しかし核兵器と原発は人間と共存できません。

第5福竜丸無線長の久保山愛吉さんが「原水爆の犠牲者は私を最後にしてほしい」という言葉を残したにも関わらず、福島で原発事故が起きてしまいました。福島は被爆地になり、目にも見えず、匂いもなく、不安ばかりが残る放射能に怯えて暮らすことになりました。原発でこんなにも恐ろしい目にあうことは考えなかったと思います。しかし、現実には思っていた以上にもっと悲惨な事になったのです。私たちは原発から撤退して自然エネルギーへの転換を目指さなくてはなりません。

原発廃炉まで30～40年といわれています。福島は二度と原発事故を繰り返すことがないように、訴え、伝えなければならぬ任務を背負いました。福島で生きていくためにすることは、学習、署名行動、集い、そして国・東電へ要請を廃炉になるまで続けなければ、福島の子どもの未来はありません。

今回参加したことで、私は核も原発もない平和な社会を子どもたちに渡す役目を強く感じてきました。

3/31 国民平和大行進

第1回福島県実行委員会開かれる

「平和行進」の第1回福島県実行委員会が3/31郡山市の安積学習センターで開かれ、県内コースの日程などを確認しました。

会議の初めに、DVD「歩く」を鑑賞。1975年の行進の映像に「懐かしいね」と参加者からの感想。

原発事故で太平洋コースは相馬→いわきの間は行進ができませんが、地元実行委員会が宮城県からの引き継ぎを検討中です。今年を通し行進者(北海道→東京コース)は横須賀の米山幸子さん(70歳)です。各コースの予定は以下の通りです。

中通コース:6/23(土)～6/30(土) 太平洋(浜通り)コース:6/24(日)～6/28(木) 会津コース:6/23(土)・6/25(月)～6/26(火)

実行委員長は富田 克英さん(県国公協議会議長)

事務局長は石堂祐子(県原水協)事務局次長は庄司正樹(県原水協)



これが平和行進だ！

DVD「歩く」

好評発売中！ ¥3500

1975年の東京→広島コースの感動の記録映像。是非ご覧ください。

頑張ってます！6・9街頭署名行動 <耶麻原水協 3/6の行動から>

原水爆禁止耶麻地方協議会は2012年3月の6・9街頭署名行動を3/6午後2時から喜多方生協東店前で行いました。午前中からの雨も上がり、曇り空ながら会津としては少し暖かく春の間近さを感じずる陽気でした。新婦人、生健会の協力もありましたが、途中から女子高校生が是非署名行動に参加させて欲しいとの申し出もあり署名活動に活気がでて、多くの方々が署名に応じてくれました。いつもの年配の人の呼びかけとは違い吸い込まれるように署名に協力する光景が印象的でした。署名も51筆集まり、若い力の影響の大きさを感じました。耶麻原水協はこうした若い力を取り込みながら、今年中に住民一割の署名をめざして奮闘することとしています。